

平成 30 年度  
自 己 点 検 評 価 書  
[自己点検・評価委員会]

令和元（2019）年 9 月  
大阪人間科学大学

## 目 次

基準Ⅰ. アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）・・・・・・・・	1
基準Ⅱ-1. カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）・・・・・・・・	2
基準Ⅱ-2. カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）・・・・	3
基準Ⅱ-3. カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）・・・・・・・・・・	4
基準Ⅲ-1. ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）・・・・・・・・	5
基準Ⅲ-2. ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）・・・・・・・・	6
基準Ⅲ-3. ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）・	7
エビデンス集一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8

大阪人間科学大学 平成 30 年度 自己点検評価報告書

基準 I	アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
------	------------------------------

◆評価基準

- ① アドミッション・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② アドミッション・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 学力の 3 要素を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を満たしていない
- ②：基準を概ね満たしている
- 3：基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

- ①アドミッション・ポリシー（以下 AP）については、「GUIDANCEBOOK（大学案内）」「ホームページ」「学生募集要項」等において「求める学生像」「高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目」「各学科・専攻の求める学生像」を掲載し周知している。
- ②入学者選抜においても AP に合致する学生を受入れるための選抜方法を設定している。面接試験を課す入試では AP に関連した内容の質問を行い、AP を理解できているかを確認している。
- ③多面的・総合的評価については、AO 入試において「AO ポートフォリオ」の提出や個人面接での自己アピール、プレゼンテーションにより「思考力、判断力、表現力」「意欲」を重点的に評価するようにしている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. GUIDANCEBOOK（大学案内）
2. 学生募集要項
3. ホームページ（AP 掲載ページ）

◆自己点検評価結果における課題と対応

平成 30 年度中に実施した入学者選抜においては、AP を明文化・公表し、AP に適した入学者選抜を実施したが、学力の 3 要素を踏まえた多面的・総合的な評価については、特に「思考力・判断力・表現力等」や「主体性等」の評価について、一部の入学者選抜では課題もあった。今後、学力の 3 要素をより多面的・総合的に評価するため、2019 年 3 月 1 日に公表した「2021 年度以降の入学者選抜について（予告）」のとおり、2021 年度（令和 3 年度）以降の入学者選抜において、基本的には現行（2019 年度）の教科・科目、選抜方式を踏襲した上で、「大学入学共通テスト」「英語の資格・検定試験」「調査書、志望理由書等」を活用した評価を行う予定としている。

基準Ⅱ-1	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	-----------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を満たしていない
- ②：基準を概ね満たしている
- 3：基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

①ディプロマ・ポリシーを具体化するために、教育課程編成方針を「カリキュラム・ポリシー」として定め、学生便覧やホームページに明示している。

②教育課程は大きく、全学共通の「基礎科目」と、それぞれの学科の「学科専門科目」から構成される。基本的には、「基礎科目」で対人援助の専門職業人となるべき基礎を固めた上で、「学科専門科目」で専門職となるための知識・技術を専門的に学ぶという形になる。また、個々の授業とカリキュラム全体、そしてディプロマ・ポリシーとの関係を明らかにするために、カリキュラムマップを作成している。カリキュラムマップでは、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの要素と関連しているかを明確にしている。併せてカリキュラムマップ上のそれぞれの科目にはナンバリングを付して、4年間の学びのルートを明らかにするとともに、各学科・専攻において「履修モデル」を作成し、「ユニバーサル・パスポート」上で学生に公開している。

授業においては、全学的にシラバスにおいて、ディプロマ・ポリシーを踏まえた上での到達目標を示すとともに、教育課程における科目の位置づけが理解できるように概要の記載に留意している。また、学生が自主的に学ぶことができるように、各回の学習項目において、予習・復習のポイントと時間を示している。併せて、授業時間内に「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」を実施している。これは、授業終了時に学生がその授業のまとめや意見等を記入し、その後担当教員がチェック・添削等した上で、翌週学生に返却するものである。この「学修ポートフォリオ（振り返りシート）」により、講義科目においても学生との双方向のやりとりが可能になる。さらには、教員は学生の理解度等を踏まえた形成的評価をもとに、授業指導計画、教授内容を検討し、次週以降の授業に反映することができる。これにより、教員自身の教授内容の目標、内容、方法の適否について確認をしながら、個々の学生の日々の学修意欲や到達点を把握することができる。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. カリキュラムマップ
3. 履修モデル
4. シラバス
5. 学修ポートフォリオ（振り返りシート）
6. 「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査

◆自己点検評価結果における課題と対応

ディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科・専攻、各科目担当教員においては体系的な教育、教育の質の向上に向けて改善に努めているが、IR 情報を活用した全学的な教学マネジメントには課題がある。教務委員会としては、IR 情報を活用し、単位修得状況、GPA、成績評価方法等に関する情報を把握し、大学全体としての学生の学修成果や教育成果に応じた教育課程の実質化とその見直しについて検討を進めていく必要がある。

基準Ⅱ-2	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検 (FD・SD 委員会)
-------	----------------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教員組織となっている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための FD 活動が実施されている

◆自己点検評価 (該当数字を○で囲む)

- 1 : 基準を満たしていない
- 2 : 基準を概ね満たしている
- ③ : 基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシーは、学生便覧及び本学 HP 上に明記され公表されている。

②基礎的事項としては、大学設置基準を満たした教員組織となっている。また、本学で取得可能な資格・免許に関する養成課程はすべて学校・養成所指定規則等を満たしており、対人援助の専門職業人を養成することが可能な教員組織となっている。

③ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善をはじめ本学の教育力の向上を目指した組織的取組みとしては、全教員を対象とした FD 研修会として「Peer review of teaching-本学におけるアクティブラーニングの実践と知見-」を3月に実施した。全教職員を対象とした研修会としては、FD・SD 研修会「教育評価の考え方と実際」を5月に実施し、SD 研修会「「内部質保証」システムの構築と「学修成果の可視化」」を10月に実施した。新任教員を対象とした「FD オリエンテーション研修会」は毎年4月に定期開催している。定期的に取り組んでいるFD活動としては、「授業評価アンケート」及び「授業評価アンケートに対するリフレクション」を実施しており、これらに基づき教授方法等の改善に努めた。「授業評価アンケート」の結果はすべての項目において高く評価されていることから、授業に対する学生の満足度は高いと解釈される。さらに、ピア・レビュー活動の一環として、特任教員を除く全専任教員が授業の相互参観を実施し、授業改善に取り組んでいる。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 授業評価アンケート結果
2. 授業評価アンケート結果リフレクションの集計結果
3. 平成30年度「FD研修会」「FD・SD研修会」「FDオリエンテーション研修会」実施記録
4. ピア・レビュー報告書記入の手引き・授業相互参観組み合わせ表

◆自己点検評価結果における課題と対応

「授業評価アンケート」をはじめ定期的に行っている活動並びに適宜必要と判断したFD・SD研修会等を実施してきているが、学生の学修成果をはじめ学修実態に関するエビデンスに基づくFD・SD活動は行われてこなかった。したがって、今後の課題は、学修実態に基づくFD・SD活動を可能とする体制を構築していくことである。また、シラバス作成、教育評価といった教育活動における基礎的事項であり尚且つ重要事項に関するFD活動を定期的に行っていくことによって、さらなる授業改善を図っていくことも課題である。これらをFD・SD委員会における新生5ヵ年計画に基づき整備していく。

基準Ⅱ-3	カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）
-------	---------------------------

◆評価基準

- ① カリキュラム・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② カリキュラム・ポリシーに適している教育設備が整備されている
- ③ カリキュラム・ポリシーに適した教育を行うための教育設備整備計画が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を満たしていない
- ②：基準を概ね満たしている
- 3：基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

①カリキュラム・ポリシー（以下 CP）については、「人間科学の学際的特徴を活かした基礎科目の設置」「資格取得に軸をおいた学科専門科目の設置」「1～4 年次を通しての少人数教育の重視」「演習・実習を中心とした実践的な教育の重視」の 4 点を明文化し、公表している。

②③教育設備の整備やメンテナンスについては、法人本部が一括して管理しているが、事務局においては CP に適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し、随時見直しを行っている。平成 30 年度については心理専門職として初の国家資格となる「公認心理師」の創設に伴い、公認心理師受験資格に対応した新カリキュラムの導入と併せて、庄屋学舎に「心理・教育相談センター」を開設することで、人々の心の健康についての研究に加えて公認心理師を目指す学生（大学院生）の養成実習に活用できるよう整備を行った。その他、「学生生活委員会」や学生課を中心に、学友会等から学生の要望をできるだけ取り入れて対応に努めている。毎年実施している「学生生活調査」においても、学内施設や設備に関する意見や要望が寄せられており、その内容については法人本部と共有・連携を図り、充実や改善に役立てている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 平成 30 年度学生生活実態調査（自由記述・施設関連抜粋）

◆自己点検評価結果における課題と対応

平成 30 年度においては平成 30 年 6 月に発生した大阪北部地震や同 9 月の台風 21 号等の自然災害により、被害を受けた施設や設備の復旧に努める必要があったが、平成 31 年度に向けては特に学生からの要望の多いフリーWi-Fi の整備を計画しており、引き続き計画的に CP に適した教育設備や環境の整備に努める予定としている。

基準Ⅲ-1	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している入学者選抜が実施されている
- ③ 入学者の追跡調査等により入学者選抜方法の妥当性が実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を満たしていない
- ②：基準を概ね満たしている
- 3：基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

<p>①ディプロマ・ポリシー（以下 DP）については、「GUIDANCEBOOK（大学案内）」「ホームページ」において明文化し幅広く公表している。</p> <p>②DP に沿った人材を育成するためにカリキュラム・ポリシーが定められ、それに基づきアドミッション・ポリシー（以下 AP）が策定されていることから、入学者選抜においても面接試験を課す入試では、将来の目標実現に結び付ける具体的なビジョンを確認するなど、DP に適した学生を受入れるための選抜方法を設定している。</p> <p>③AP においては高等学校で身に付けておくことが望ましい素養と履修すべき科目も明文化し、そこには DP で定めているコミュニケーション能力やその基礎となる語学力（国語力）を有していることとしている。これらの入学者選抜方法の妥当性を確認するため、入学者の追跡調査を行っている</p>
--

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 入試種別毎の GPA 分布
2. 入試種別毎の単位取得状況
3. 入試種別毎の中退状況

◆自己点検評価結果における課題と対応

<p>DP については明文化し、公表についても幅広く周知している。入学後の追跡調査によると、入試種別毎の GPA 分布では公募推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、指定校推薦については大きな差異は見られないが、AO 入試については低い傾向が見られ、取得単位状況、中退状況においても同様の傾向が見られることから、AO 入試における「知識・技能」の評価方法の検討を含め、入学者選抜方法の妥当性の確認を継続して実施していく。</p>
---

基準Ⅲ-2	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（教務委員会）
-------	----------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適している教育が実施されている
- ③ IR 情報を利用した教学マネジメントが実施されている

◆自己点検評価（該当数字を○で囲む）

- 1：基準を満たしていない
- ②：基準を概ね満たしている
- 3：基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

①本学は、教育理念である「自立と共生の心を培う人間教育」のもと「人間性豊かな幅広い知識を持った専門職業人」を育成することを教育目標としている。この教育目標は「ディプロマ・ポリシー」に反映され、学生便覧やホームページに明示している。

②単位の認定、卒業・修了要件については学則で定められており、適正に運用されている。成績評価、進級条件、キャップ制、GPAの活用も「大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則」「大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程」「大阪人間科学大学 試験内規」に定められており、適正に運用されている。

③それらの導入に際しては、成績分布状況や単位修得状況といったIR情報を活用し、教務委員会で検討の上、それぞれの要件や基準値を定めている。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー
2. 大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
3. 大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
4. 大阪人間科学大学 試験内規

◆自己点検評価結果における課題と対応

現在、IR情報については、各種制度の導入に関して、成績評価、進級条件、キャップ制、GPAの活用といった、データを分析し利用しているが、今後は定期的に検証し活用できるように体制を整える必要がある。また、学生の学修成果、学修状況の把握を行い、専門職業人としての能力の獲得に向けた教育改善と可視化に活用する。



基準Ⅲ-3	ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検 (キャリア開発委員会)
-------	---------------------------------

◆評価基準

- ① ディプロマ・ポリシーが明文化され、公表されている
- ② ディプロマ・ポリシーに適した専門職業人の育成を掲げ、有資格者を社会へ輩出している

◆自己点検評価 (該当数字を○で囲む)

- 1 : 基準を満たしていない
- 2 : 基準を概ね満たしている
- ③ : 基準を全て満たしている

◆自己点検評価結果の理由

①について大学 HP、大学案内等に公開し、周知を図っている。また学生には新入生対象のガイダンスやオリエンテーション等の行事を通じて説明している。合わせて保護者に対しても毎年実施している保護者懇談会にて教務担当部長より説明している。

②については、各学科・専攻の学びや専門性を活かした進路選択をする学生の割合が高く、社会に必要とされる人材を輩出していると言える。

◆自己点検評価結果のエビデンス

1. 平成 30 年度卒業生就職率
2. 平成 30 年度就職者専門職化率
3. 平成 30 年度国家試験合格率

◆自己点検評価結果における課題と対応

エビデンス 3 に記載の通り、各国家試験で全国平均を上回る合格率となったが 4 年制大学の新卒者合格率と比較すると視能訓練士以外の資格では平均以下となっている。専門職業人の養成校として 4 年制大学の新卒者合格率を毎年上回る実績を残すこと、そしてその為のメソッドを確立させることが必要であると考えている。

・平成 31 年 3 月卒業生の各国家試験の合格率は以下の通りである。

社会福祉士 : 48.3% (53.7%)、精神保健福祉士 : 62.5% (77.0%)、介護福祉士 : 88.9% (非公表)、視能訓練士 : 100% (99.2%)、言語聴覚士 : 71.4% (84.4%)

※カッコ内は 4 大新卒平均合格率

## エビデンス集一覧

基準	タイトル
基準Ⅰ	2019 GUIDANCEBOOK (大学案内)
	2019年度 学生募集要項
	ホームページ (AP 掲載ページ)
基準Ⅱ-1	人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー
	カリキュラムマップ
	履修モデル
	シラバス
	学修ポートフォリオ (振り返りシート)
	「学修ポートフォリオ」等の利用状況調査
基準Ⅱ-2	授業評価アンケート結果
	授業評価アンケート結果リフレクションの集計結果
	平成30年度「FD研修会」「FD・SD研修会」「FDオリエンテーション研修会」実施記録
	ピア・レビュー報告書記入の手引き・授業相互参観組み合わせ表
基準Ⅱ-3	平成30年度学生生活実態調査 (自由記述・施設関連抜粋)
基準Ⅲ-1	入試種別毎のGPA分布
	入試種別毎の単位取得状況
	入試種別毎の中退状況
基準Ⅲ-2	人間科学部と各学科・専攻の3ポリシー (再掲)
	大阪人間科学大学 履修方法等に関する細則
	大阪人間科学大学 試験及び成績評価に関する規程
	大阪人間科学大学 試験内規
基準Ⅲ-3	平成30年度卒業生就職率
	平成30年度就職者専門職化率
	平成30年度国家試験合格率

平成 30 年度  
外部評価報告書

令和元（2019）年 10 月  
大阪人間科学大学

外部評価委員

氏 名	職 名
はし おだに ともや 箸尾谷 知也	摂津市教育委員会 教育長

## 外部評価議事要旨

日 時：令和元年 10 月 1 日（火）10:30~11:30

場 所：摂津市役所 教育長室

出席者：

（評価員） 箸尾谷委員

（本 学） 橋本大学事務局長

（陪席者） 河平摂津市教育委員会事務局 教育総務部 学校教育課長

藤田大学事務局次長

### 1.平成 30 年度自己点検評価について

橋本大学事務局長から資料に基づき自己点検評価についての説明が行われ、意見交換の後、箸尾谷委員から「大学における自己点検評価については妥当である」との外部評価を受けた。

#### 意見交換の主な内容

（評価者）「基準Ⅰ アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）」について、大学案内がエビデンスとなっているが、3 ポリシーについては大学案内では冊子の後半部分に掲載されている。非常に重要なものであると考えるため、冒頭にわかりやすく掲載すべきではないか。

（本 学）学生募集要項では冒頭に掲載をしている。大学案内については今後掲載方法を検討する。

（評価者）「基準Ⅱ-2 カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（FD・SD 委員会）」について、「FD 研修会」「FD・SD 研修会」「FD オリエンテーション研修会」がエビデンスとなっているが、これらの研修会の評価・検証は行っているか。

（大 学）アンケートを実施し、評価・検証を行っている。

（評価者）「基準Ⅱ-3 カリキュラム・ポリシーにおける評価・点検（事務局）」について、「学生生活実態調査」の自由記述欄における学生からの要望も確認されており、自己点検評価の姿勢がうかがえる。

なお、「CP に適した教育設備や環境が整備されるよう適切に計画を立案し」との記載があるが、施設設備計画の資料はエビデンス資料としないのか。予算も必要となり、中長期的な計画が必要であるとする。

（本 学）現在のところ、学生からの意見等から優先度の高いものから整備を行っており、施設設備計画資料は作成していない。今後の課題と認識している。

（評価員）「基準Ⅲ-1 ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）」について、AO 入試での入学者については入学後の GPA が低い傾向が見られるとのことだが、AO 入試については、「基準Ⅰ アドミッション・ポリシーにおける評価・点検（入試委員会）」

にもあるとおり、APに合致し、「思考力、判断力、表現力」や「主体性」を持ち合わせた学生を選抜しているものと考えられる。そのような多面的・総合的評価により入学した学生の評価については、GPAのみではなく他の評価尺度も必要なのではないか。現在、企業では自ら課題を見つけて解決する力が求められているため、大学においてもそのような能力を持つ学生が力を発揮できるような評価を行う必要があるのではないか。

(本 学) 本年度（令和元年度）から、学生の能力を9つの視点から評価するシステム（OHS ディプロマサプリメント）を導入した。今後は成績評価だけではなく能力評価も行い、検証を行っていく。

(評価者) 「基準Ⅲ-3 ディプロマ・ポリシーにおける評価・点検（キャリア開発委員会）」について、自己点検評価結果における課題としては、国家試験合格率を4年制大学の新卒者合格率レベルにするとの認識でよいか。

(本 学) そのとおりである。各国家試験で全国平均を上回る合格率となっているが、これを4年制大学の新卒者合格率を毎年上回る実績を残し、そのためのメソッドを確立したい。

(評価者) 自己点検評価書の様式について、各評価基準の「自己点検評価」の欄は最も評価が高い「基準を全て満たしている」の項目を一番上に表記するべきではないか。

(本 学) 次年度以降の様式について検討する。